はじめに

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、本当の外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる**のが、古文のオイシイところです。

さて、「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール」**です（「読解のルール」の中には、**「古文常識」**や**「作品常識」**といわれるものも含みます）。三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。
古文ができない、読めないという人のほとんどは、この「文法」と「単語」をおろそかにしてしまっています。
この講座は、この土台の一つである、**「文法」の入試に必要な知識を全十二回で身につけてしまう講座**です。
基本から説明をして、難関大といわれている大学の文法入試問題も解けるようにしていきますので、
「古文なんて大キライ」という人も、
「古文には多少自信があってさらに得意科目にしたい」という人も、
「嫌いかどうかすらわからないくらい、何ひとつ勉強していない」という人でも！
どんな人でも大歓迎です。
この講座で文法のコツをしっかりつかんで、是非、古文を得点源の科目にしてください！
三年生になり、さらに忙しくなった時に、古文で苦しまなくてもいいように、今の間に一緒に仕上げてしまいましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。ノートも不要です。**テキストと筆記用具**さえあれば大丈夫です。**テキストへの書き込み**で授業をすすめていきます。**書き込み用のペン（何色でも可）**をご準備ください。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。なお解答欄はありませんので、選択式問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。ちなみに、**〈例題〉はオリジナル問題**で、**「問題」は実際の入試問題**です。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。テキストに書いてあること全てが大事なことなのですが、特に**太字になっているところ**や**空欄に自分で書き込んだところ**に関して、重点を置いて覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終わったら、後ろにある**「復習問題」**（全て入試問題で作成）を解きましょう。復習問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「復習問題」を解き直してください。

この「復習問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目　次

第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」……p. 4
第二講　「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」……p. 17
第三講　「ず」／「き・けり」／「つ・ぬ」／「たり・り」／「ぬ」・「ね」の識別……p. 27
第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別……p. 42
第五講　「まし」／「推定系の助動詞」／「希望系の助動詞」／「む・むず」／「じ」……p. 56
第六講　「らむ・けむ」／「らむ」の識別／「べし・まじ」……p. 67
第七講　2つの「なり」／「なり」の識別……p. 79
第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」……p. 90
第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別……p. 106
第十講　「終助詞」／「ばや」の識別／「なむ」の識別／「呼応の副詞」……p. 117
第十一講　「に」の識別／「敬語」⑴……p. 132
第十二講　「敬語」⑵……p. 143

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」

★歴史的仮名遣い

〈表記〉

（現代語→古文）

① じ　→「ぢ」　／　ず　→「づ」

② 促音「っ」→つ　／　拗音「ゃ・ゅ・ょ」→「や・ゆ・よ」

〈読み方〉

（古文→現代語）

① ゐ　→「　」

② ゑ　→「　」

③ くゎ　→「　」　／　ぐゎ　→「　」

④ 語頭以外の「はひふへほ」→「　」

⑤ a＋う　→「　」　／　i＋う　→「　」　／　e＋う　→「　」　／　o＋う　→「　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★歴史的仮名遣いにおける五十音図

ア行	あ		う		お
ヤ行	や		ゆ		よ
ワ行	わ		う		を

★品詞＝十個（名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）

○**名詞＝「　　　」**

○**動詞・形容詞・形容動詞＝「　　　」**

★活用する品詞＝四個　※活用する＝形が変わること

「動詞」・「形容詞」・「形容動詞」・「助動詞」

★**活用形**＝六種類

「未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形」

○活用形を考える時は「　　　」を見る。

活用形	下の語
未然形	ず
連用形	用言・けり・たり（完了）・て・、
終止形	。・　**」**・引用の「と」
連体形	体言
已然形	ども
命令形	。・　**」**・引用の「と」

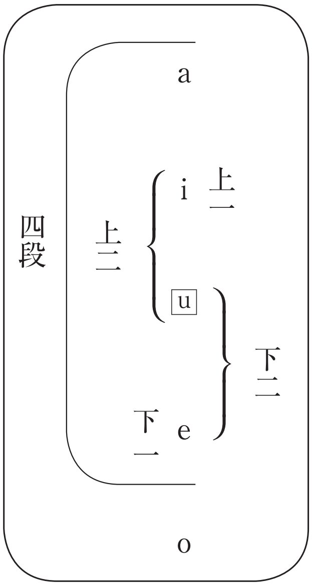
© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

動詞

★**活用の種類**＝九種類

「四段活用・上一段活用・下一段活用・上二段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用」

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ
カ行変格活用	こ	き	く	くる	くれ	こ(よ)
サ行変格活用	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格活用	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格活用	ら	り	[り]	る	れ	れ



上一→下一＝i→け
上二→下二＝i→e

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★活用の種類の見分け方

① 覚えておくべきもの

上一段活用＝「**干(ひ)る**」「**射(い)る**」「**鋳(い)る**」「**着(き)る**」「**似(に)る**」「**煮(に)る**」「**見(み)る**」「**居(ゐ)る**」「**率(ゐ)る**」（「**率ゐる**」「**顧みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

カ行変格活用＝「**来(く)**」・「**～来**」（**→**「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

※それ以外のサ変

○「**～す**」の「す」が「**する**」と訳せるもの　（例）「旅す」など

○「**～んず**」の形＝サ変が多い。　（例）「信ず」「案ず」「論ず」など

○「**漢字一字の音読み＋す**」　（例）「奏(そう)す」「具(ぐ)す」など

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往(い)ぬ**」「**去(い)ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居(を)り**」「**侍(はべ)り**」「**いまそかり**」（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

② ①にないもの**→**「**ず**（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず**→四段**活用　（例）「咲く」→「咲**か**ず（咲**か**ない）」

i＋ず**→上二段**活用　（例）「起く」→「起**き**ず（起**き**ない）」

e＋ず**→下二段**活用　（例）「答ふ」→「答**へ**ず（答**へ**ない）」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	③カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	③マ行上一段活用

① 「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をU段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

（例）現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

② 「語幹」＝「基本形」―「終止形」の文字

（例）「咲く」―「く」＝「咲」が語幹

「見る」―「みる」＝語幹なし

③ ○行＝一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行　（例）「咲**く**」＝**カ行**四段活用

一段活用は基本形の「**る**」の「**上**」の文字の行　（例）「**見る**」＝**マ行**上一段活用

〈例題一〉「居る」の活用の種類を答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「覚ゆ」の活用の種類として、最も適切なものを一つ選びなさい。

a　上一段　　b　下一段　　c　四段　　d　上二段　　e　下二段

問二　「侍る」と活用の種類が同じ動詞を、次のａ～ｅの傍線部の中から一つ選べ。

a　漏れ聞き候ふべく候ふ。

b　嫌（もど）き誹（そし）りぬべからむこと、…

c　心のうちも推し測らるるものにて候ふ。

d　また、知る人、すずろに…

e　花のやうに春ある人は、一盛り映えあるやうに…

問三　「『あの法師捕らへよ』と、…」の傍線部について、基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適切なものを後の中から選べ。

〈活用の種類〉

a　四段活用　　b　下一段活用　　c　下二段活用　　d　ラ行変格活用　　e　ナ行変格活用

〈活用形〉

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「死して」の傍線部の活用の種類として最適なものを次のア〜エから選べ。

ア　ナ行変格活用　　イ　ナ行四段活用　　ウ　サ行四段活用　　エ　サ行変格活用

問五　次のA・Bの傍線部の動詞「まねぶ」・「取り出で」の、1　活用の行　2　活用の種類　3　活用形は何か。該当するものを、後のア〜カの中からそれぞれ一つずつ選べ。

A　若き人々もこのことまねぶをば、御心とどめてをかしきものにおもほしたれば…

B　心やすくも取り出でたまはず、いといたく秘めて、…

1　ア　ア行　　イ　タ行　　ウ　ダ行　　エ　ナ行　　オ　バ行　　カ　マ行

2　ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　上二段活用　　エ　下一段活用　　オ　下二段活用　　カ　変格活用

3　ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

A　1＝　　2＝　　3＝

B　1＝　　2＝　　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

○ 射(い)る・鋳(い)る　＝　行上一段活用
○ **得(う)**・心得(こころう)・所**得**(ところう)　＝　行下二段活用
○ 植(う)う・飢(う)う・据(す)う　＝　行下二段活用
○ 老(お)ゆ・悔(く)ゆ・報(むく)ゆ　＝　**ヤ行**上二段活用

問六　次の傍線部a・b・c・d・eの動詞の活用の種類として最も適切なものを、後の①～⑩の中から一つずつ選べ。ただし、同じ番号は一度しか選べない。

植ゑ[a]などしたりけり。
営み　ゐ[b]たり。
鶯のまだ　見え[c]ぬは。
心も　得[d]ぬことかな
射[e]落として侍り

①　ア行四段活用　②　ア行上二段活用　③　ア行下二段活用　④　ハ行四段活用
⑤　マ行上一段活用　⑥　マ行下二段活用　⑦　ヤ行上一段活用　⑧　ヤ行下二段活用

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑨　ワ行上一段活用　　⑩　ワ行下二段活用

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問七　次の二重傍線部の動詞a「老い」・b「損なは」の活用の種類と、活用形を記せ。

年[a]老いたる女房の、「あれは御腹の[b]損なはせ給へるを、…

a＝　　b＝

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→**「訳し方の違い」**がある。

- 四段＝そのまま訳す
- 下二段＝四段の意味＋「　　　」

（例）「入(い)る」

四段＝中にはいる。

下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※入試頻出の「二種類ある動詞」三個

○「被く（かづく）」
四段＝かぶる・褒美をいただく
下二段＝かぶせる・褒美を与える

○「頼む」
四段＝頼みにする・あてにする
下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

○「慰む」
四段＝心が晴れる
下二段＝（心を晴れさせる→）慰める

問八　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　頼りにして　　イ　期待させておいて　　ウ　なんとかして　　エ　ひたすらお願いして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★終止形が一文字の動詞

来　す　得　寝　経

音便

発音しやすいように、別の音に変化する現象のこと。

（例）書**き**て→書**い**て　＝「**イ音便**」という。

【動詞】

○イ音便「き・ぎ・し」→「い」

○ウ音便「ひ・び・み」→「う」　（例）買**ひ**て→買**う**て

○**促音**便「ひ・ち・り」→「**っ**」　（例）買**ひ**て→買**っ**て

○**撥音**便「に・み・び」→「**ん**」　（例）飛**び**て→飛**ん**で

ラ行変格活用連体形活用語尾「**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）あ**る**なり→あ**ん**なり→あなり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」

①「かはれども」の傍線部の活用形として正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②次のA・Bの傍線部の動詞「心得」・「酔ひ」の、1　活用の行　2　活用の種類　3　活用形は何か。該当するものを、後のア～カの中からそれぞれ一つずつ選べ。（重複使用可）

A　神主も心得て、大土器をぞまゐらせしに、…

B　さばかり酔ひなむ人は、…

1　ア　ア行　イ　カ行　ウ　ハ行　エ　ヤ行　オ　ラ行　カ　ワ行

2　ア　四段活用　イ　上一段活用　ウ　上二段活用　エ　下一段活用　オ　下二段活用　カ　変格活用

3　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

A　1＝　2＝　3＝

B　1＝　2＝　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　ア〜オの文節中に含まれている動詞の活用の種類が、他と異なるものを一つ選べ。

ア　劣れり
イ　詠むべからず
ウ　まされるが
エ　とがめけり
オ　持ちたりけり

④　「ゐたりけり」の「ゐ」と活用の種類の同じ動詞を、次のア〜エの中から一つ選べ。

ア　見ければ　　イ　飛び来て　　ウ　寝たる　　エ　しける

⑤　「早苗を植□、水をせき入れ…」の空所に当てはまる動詞の活用語尾として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　え　　イ　ゑ　　ウ　へ　　エ　う　　オ　ふ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　模範解答

〔例題一〕　ワ行上一段活用

問一　e

問二　e

問三　捕らふ・c・カ

問四　エ

問五　A　1オ　2ア　3エ　B　1ウ　2オ　3イ

問六　a⑩　b⑨　c⑧　d③　e⑦

問七　a　ヤ行上二段活用・連用形　b　ハ行四段活用・未然形

問八　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第一講　「歴史的仮名遣い」／「動詞」

〔解説〕

① **活用形は下を見る**。本設問では「ども」。「**ども**」の上は**已然形**。よって、正解はオ。

② Ａ 「**心得**」は覚えておくべき活用の動詞。**ア行下二段活用**。**活用形は下**＝「て」。「**て**」の上は**連用形**。

Ｂ 基本形は「酔はない」→「酔ふ」。よって、ハ行四段活用。活用形は下を見て、本来は「な」＝助動詞「ぬ」の接続から考える問題だが、助動詞は未学習の為、現段階では四段活用の「活用の仕方」で考えよう。そうすると、四段活用で「ひ」なので「連用形」とわかる。

③ ア「**劣らない**」、イ「**詠まない**」、ウ「**まさらない**」、オ「**持たない**」となるので、これらは全て**四段**活用。エのみ「**とがめない**」となるので、**下二段**活用。よって、正解はエ。

④ 「ゐ」＝「ゐる」＝上一段活用。選択肢の中で上一段活用はアの「見る」。よって、正解はア。ちなみに他の終止形と活用の種類は、イ「来(く)」＝カ変、ウ「寝(ぬ)」＝下二段活用、エ「す」＝サ変である。

⑤ 空欄の上が「植」より、終止形＝「植う」の動詞。**活用語尾**＝**活用形**を考える。**下**を見ると「**、**」なので**連用形**にする。「**植う**」は覚えておくべき活用の動詞で**ワ行下二段活用**。よって、連用形は「**ゑ**」。正解はイ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔解答〕

①　オ

②　A　1　ア　2　オ　3　イ　B　1　ウ　2　ア　3　イ

③　エ

④　ア

⑤　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。